



ウクライナをみつめて

- ドキュメンタリー映画『ピアノーウクライナの尊厳を守る闘い』
- 映画『赤い闇 スターリンの冷たい大地で』 (PG12 対象)
- 小室等 ～ウクライナへ思いを込めて～ (歌・語り:小室等)
- ウクライナの現状についての報告とユーロ・マイダン革命について (日本チェルノブイリ連帯基金事務局長 神谷さだ子)

2022年 **7/10** (日) **13:30開演**
[12:45開場]

キッセイ文化ホール | 長野県松本文化会館 | **大ホール**

入場料 一般 **2,000**円 U-25 **500**円(全席自由・税込)

スケジュール

- 13:30 映画上映:『ピアノーウクライナの尊厳を守る闘い』
 - 14:20 ウクライナの現状についての報告とユーロ・マイダン革命について (日本チェルノブイリ連帯基金事務局長 神谷さだ子)
 - 15:00 小室等 ～ウクライナへ思いを込めて～ (歌・語り:小室等)
 - 15:45 映画上映:『赤い闇 スターリンの冷たい大地で』
- ※途中休憩あり。各プログラム間での途中入場、再入場可能。

(一財)長野県文化振興事業団インセンティブ事業

プレイガイド | 窓口・電話予約 | キッセイ文化ホール ☎0263-34-7100
 | 窓口 | 井上プレイガイド ☎0263-34-3655
 平安堂あづみ野店 ☎0263-72-8877
 | インターネット | (一財)長野県文化振興事業団
<https://p-ticket.jp/naganobunka>
 イベントナガノ
<https://www.event-nagano.net/>



主催 一般財団法人長野県文化振興事業団(キッセイ文化ホール)
共催 長野県/長野県教育委員会
後援 信濃毎日新聞社/市民タイムス/MGプレス

※未就学児の入場はご遠慮ください。
 ※車椅子席をご希望の方はキッセイ文化ホールまでお問い合わせください。
 ※大学生以下の方は、当日、年齢確認のできる身分証明書等の提示をお願いいたします。
 ※新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じて開催いたします。
 ※駐車場に限りがございますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

キネマまつぶんシアター VOL.3 ウクライナをみつめて

作品紹介

ドキュメンタリー映画

『ピアノ —ウクライナの尊厳を守る闘い—』

わが身も魂も捧げよう 我らの自由を得るために
ウクライナに栄光あれ!

2014年2月、親ロシア派の政権に抗議する市民や学生が機動隊と対峙した「ユーロ・マイダン革命」。この騒乱の真ただ中の首都キーウの独立広場で、音楽院の学生アントネツ・ミッシェンコがバリケードにされようとしていたピアノを救い出した。厳寒の広場で若きアントネツが演奏するショパンは人々の心をつかむ。そして世界的に有名な作曲家であるリュドミラ・チチュクや兵士のヴォロディミル、覆面の男ボーダンも演奏に加わっていく。政権側は彼らを「ピアノ過激派」と呼んだ。広場のピアノと4人の英雄は、やがてウクライナの平和革命の象徴となり、同時に権威主義的支配への抵抗となっていく。

ユーロ・マイダン革命

2014年2月、ウクライナの首都キーウの独立広場では、当時の親ロシア派のヤヌコビッチ政権に反対した市民らが軍や警察と衝突して多くの死傷者が出た。ウクライナ人の尊厳を守るための闘いと言われる「ユーロ・マイダン革命」。この革命により、ヤヌコヴィチ大統領が失脚し、隣のロシアへ亡命することになった。この革命によって、新たな政権の発足や、2004年憲法の復活、数ヶ月以内の臨時大統領選挙の成し遂げなど多くの成果をあげ、ウクライナの政治・社会に大きな変化をもたらした。一方で、親ロシア派のヤヌコヴィチ大統領の失脚は、ロシアの猛反発を招き、ウクライナ領のクリミア半島のロシア併合、親ロシア派武装勢力によるドンバス地方での戦争勃発、クリミア危機・ウクライナ東部紛争、そしてウクライナへのロシア侵攻へとつながっていった。

映画祭/受賞歴

2017年 MiradasDoc(スペイン)グランプリ受賞

2016年 ORL Eagle Awards(ポーランド)ドキュメンタリー映画部門 最優秀賞

映画

『赤い闇 スターリンの冷たい大地で』

皆、狂うほどに餓えている——

2020年公開された本作は、いま大きな話題となっている。ロシアによるウクライナ侵攻に対するウクライナ国民の闘志の源泉が何か。その一端が『赤い闇』から見えてくる。名匠アグニェシュカ・ホランドが、息もつかせぬサスペンフルな語り口、陰影豊かなヴィジュアルで、秘密主義の独裁国家に潜入した実在のイギリス人ジャーナリストの闘いを描出。ガレス・ジョーンズはいかなる苦難の末に、スターリンの“偽りの繁栄”の実態を暴いたのか。そしてソ連の執拗な妨害工作に阻まれるなか、果たしてその一大スクープを世に知らしめることができるのだろうか?

ストーリー

1933年、ヒトラーに取材した経験を持つ若き英国人記者ガレス・ジョーンズには、大いなる疑問があった。世界恐慌の嵐が吹き荒れるなか、なぜスターリンが統治するソビエト連邦だけが繁栄しているのか。その謎を解くために単身モスクワを訪れたジョーンズは、外国人記者を監視する当局の目をかいくぐり、すべての答えが隠されているウクライナ行きの汽車に乗り込む。やがて凍てつくウクライナの地を踏んだジョーンズが目の当たりにしたのは、想像を絶する悪夢のような光景だった……。

アグニェシュカ・ホランド(1948年11月28日-)

ポーランド・ワルシャワ出身の映画監督、脚本家。1980年には『田舎俳優』がカンヌ国際映画祭批評家週間部門に出品され、国際映画批評家連盟賞を受賞するが、その翌年の戒厳令を期に西側諸国に移住する。以後はフランス、ドイツ、アメリカ(ハリウッド)で映画監督として活躍。1986年には、第二次世界大戦中、あるユダヤ人女性をナチスの迫害から匿うドイツ人農夫を描いた『Bittere Ernte』がアカデミー外国語映画賞にノミネートされる。太陽と月に背いて(1995)、ソハの地下水道(2011)。

2015年/41分/ポーランド/撮影地:ウクライナ

原題:PIANO

配給:アジアドキュメンタリーズ

監督:ピータ・マリア・ドリガス 撮影:ユラ・デュネイ、アレクサンダー・チュエコ

編集:トーマス・チェセルスキー 音響:フランシスコ・コズラウスキー



2019年/118分/ポーランド・イギリス・ウクライナ合作/PG12

原題:Mr. Jones

配給:ハビネットファントム・スタジオ

監督:アグニェシュカ・ホランド 脚本:アンドレア・チャルバ

出演:ジェームズ・ノートン、ヴァネッサ・カービー、ピーター・サースガード

©FILM PRODUKCJA PARKHURST KINOROB - JONES BOY FILM -

KRAKOW FESTIVAL OFFICE - STUDIO PRODUKCYJNE ORKA -

KINO ŚWIAT - SILESIA FILM INSTITUTE IN KATOWICE

※PG12:12歳未満の年少者の観覧には、親又は保護者の助言・指導が必要。

観覧する際はなるべく保護者同伴をおすすめする作品。



プロフィール

こむろ ひとし

小室 等

1968年にグループ「六文銭」を結成。1971年第2回世界歌謡祭にて「出発の歌」(上條恒彦+六文銭)でグランプリを獲得。

現在はライブ活動の他、イベントプロデューサー、テレビドラマ・映画・舞台の音楽制作、連載コラムの執筆など活動は多岐にわたる。

1992年と94年に日本チェルノブイリ連帯基金のデレゲーションと共にベラルーシとチェルノブイリを訪問する。



©坂本ようこ

かみや

神谷 さだ子

日本チェルノブイリ連帯基金事務局長として、現在ウクライナ支援に取り組んでいる。

2014年にキーウを訪問。当時のウクライナのユーロ・マイダン革命の状況を革命広場で実際に目撃している。

